

第三号議案 中期計画(2017-2020)策定の件

愛知大学生生活協同組合 中期計画 (2017-2020)

愛知大学生協は 2008 年に愛知大学名古屋生活協同組合と愛知大学豊橋消費生活協同組合が合併し誕生しました。新しい生協として将来を展望した 5つの使命を確認し、計画に沿った活動をすすめてきました。

5つの使命 (ミッション)

- ① 学内ショップであり協同組合でもあるというメリットを最大限生み出せるよう商品とサービスの提供に努力をすること。
- ② 安心感と安全性を重視した商品・サービスの提供を心掛け、組合員が困ったときにも頼りにされるサービスと保障を提供すること。
- ③ 「愛大に来てよかった」という学びと体験づくりに少しでも役立てることを目指します。
- ④ 健全な経営体質強化を図り、安定した経営で大学と組合員に貢献できるよう努めます。
- ⑤ どのキャンパスでも同程度の事業とサービスが提供できるよう努めます。

2014年の総代会で中期計画(2014-2016)を策定し、2012年度春の名古屋校舎移転後の事業環境の変化や今後の方向性を確認してきました。現中期計画の到達状況は以下のとおりです。

1. 現中期計画で目指したこと

- (1) 学内に無くてはならない生協、誰もが生協が無いと困る生協づくりをすすめる。
- (2) 多様な競合の中で生協の果たす役割を明確にし、そこに経営資源を投入する。
- (3) 効率的な運営で成果を上げた分は組合員還元とサービス向上に振り向ける。

2. 現中期計画 2014-2016 の到達について

(1) 課題 1：学内に無くてはならない生協づくりをすすめる。そのために、生協の加入者を増やします。また、生協の事業内容を知らない人がいないくらいに知らせ、組合員が利用はもちろん、運営にも参加できる生協づくりをすすめます。

- ① 組合員の加入率 100%を目指して加入にとりくむ。

⇒学生の組合員は 98%を維持し、ほぼ目標は達成できています。

⇒教職員の組合員は、2016 年度末で教員 53.4%、職員 22.7%です。この 2 年間加入活動を強化してきましたが、定年で脱退される方も多く加入率はあまり増えていません。特に名古屋校舎が低い傾向にあります。

- ② 学内の全員に生協の情報を知らせていくための宣伝と情報提供を徹底して努力し、知らない人がいない状態をめざしてとりくみます。

⇒情報提供はまだ弱く、目標は未達成です。今後も SNS 等様々な媒体を活用し情報発信力を強める必要があります。

- ③ 意見を聞き、運営に生かす努力

(2)課題2：生協の役割を明確にし、組合員貢献とサービス向上のために、キャンパス内の学びと食を支える拠点としての役割を一層果たします。

① 新名古屋キャンパスに相応しい生協づくりをいっそうすすめます。

⇒WIZは店舗面積が狭いため文具と書籍のみの店舗となっています。2012年の移転時から提供するサービスは変わっていません。今後も組合員や大学から広く声を集め、より学内で必要なサービスを提供できる店舗にしていく必要があります。

② 豊橋校舎での学生数半減とコンビニ出店という環境変化を踏まえて、生協に期待される事業に集中してとりくみます。

⇒学生数の減少により文具の縮小など提供するサービスの見直しをすすめてきました。4年を経て、豊橋校舎の規模に合った職員体制で運営できるようになってきました。今後は組合員や大学のニーズをよく聞き、必要なサービスの提供をより一層強化する必要があります。また、逍遥館オープンからもうすぐ20年が経ちます。施設の老朽化が進んでいるので、設備への必要な投資をこの3年間で計画的に行っていきます。

③ 車道校舎が大学院とオープンカレッジ生のキャンパスになったことを踏まえ、生協が校舎の中で果たせる役割を見極め、今後の店舗の在り方を検討します。

⇒車道店は会計大学院の募集も停止し、ここ数年毎年200万円～250万円程度の赤字です。また、2017年度には大学院も名古屋校舎に移動となります。このような状況の中で赤字構造の回復は難しいですが、生協全体では黒字構造に転換しており、3校舎での生協のサービス提供を重視し、今後も車道校舎での役割発揮をすすめます。

④ 生協の強みを発揮するために、全国や東海四県の大学生協との連携の力を、教育研究と食への貢献を中心に事業内容のレベルアップ、質の向上を図ります。

⇒食堂は東四地区(東海より東のエリア)との共同でメニュー改善が進んでいます。また、2014年度にスタートした東海事業連合内の私学連携により私学5生協内での協力関係が進んでいます。

⑤ 事業目標として8億5000万円(9億円)の供給と単年度黒字を目指します。

⇒2015年、2016年供給高9億円を達成し、単年度黒字も2013年から4期連続達成しています。

⇒2017年度までに累積赤字を半減する目標は、2014年度末時点で累積赤字を解消し、2016年度末で5,340万円の累積黒字となっています。

愛大生協は、発展する愛知大学のなかで従来以上に大学・大学構成員にいっそう頼りにされ役に立つ存在になりたいと考えています。

大学生協という組織形態に特徴・優位性を発揮できる条件があっても、実際に行っていることや生協職員が提供している事業が他の企業等と比べて劣っている場合は、大学や大学構成員に選ばれる存在にはなり得ません。このことを自覚し、既存の事業領域でのサービス内容を充実・拡大し、より利用しやすい店舗・食堂を築き上げていく努力を重ねていくことが必要です。

そして、大学生協の最も大切な使命の一つは、大学の目指す方向性に貢献していくことです。大学の中期目標・中期計画に積極的に協力・貢献するために、中期計画を策定し、様々な取り組みをすすめていきます。

3つの社会的使命

社会的使命は、愛知大学生協の存在意義を表すものです。「何のために存在する組織か」を自ら既定しています。

- 1 人間らしい豊かな生活、人と地球にやさしい社会を実現します。
- 2 文化と高等教育の充実を願い、魅力ある大学づくりに参加します。
- 3 協同体験を大切にし、くらしのなかで協同の輪を広げます。

3つのビジョン（中期目標）

3つのビジョン（中期目標）は、生協が組合員にとって、愛知大学にとって「頼りになる存在」・「なくてはならない存在」であり続けるために、「何を実現したいか」・「どのように学生を支援できるか」・「どのような貢献ができる生協でありたいか」を目標として表したものです。ビジョンと現在の活動内容・レベルを対比しながらふりかえる原点となります。

1 勉学・教育・研究・キャリア形成のサポートを通じて、愛知大学の使命達成に貢献します。

- (1)教科書をはじめとする勉学研究に貢献する書籍事業を強化します。
- (2)教学におけるパソコン・情報機器部分野の教材提供とサポート事業を強化します。
- (3)組合員の学びと成長を支援するキャリア形成支援事業を強化します。
- (4)教員の研究室、校費関係の要望に応える商品・サービス事業を強化します。

2 すべての大学構成員の魅力ある大学生活、豊かな大学生活に、様々な事業・サービスを通して貢献することで「なくてはならない生協」として学内での価値を高めます。

- (1)入学から卒業まで、組合員の生活シーンに合わせた学生支援事業を展開します
- (2)食と健康、安心安全に応えたフードサービス事業を展開します
- (3)キャンパス・コンビニエンスとして、組合員の利便性を追求した事業・サービスを展開します。
- (4)学生だけではなく、教員・職員・大学院生・留学生など各階層の生活やニーズに対応した商品・サービス提供、店舗運営を展開します。
- (5)必要とあれば、大学業務のアウトソーシングの受け皿となり、大学業務の効率化に協力します。

3 大学・地域社会におけるコミュニティづくりと学生の生活主体者としての成長の場づくりに貢献します。

- (1)福利厚生施設が大学構成員の憩いの空間となるよう、施設提案・環境整備を大学の協力のもと進めます。

- (2) **理事会・学生委員会**が中心となり、組合員どうしの交流や協同を育む取り組み、キャンパスを活性化する取り組みを進めます。
- (3) **健康で安全な学生生活を支えるための助け合い**（共済事業）、健康と事故防止のための啓発活動を強化します。
- (4) **読書、英語、就職活動、食生活など様々なテーマ**で組合員どうしが学び合い、交流できる場を広げます。
- (5) **オープンキャンパスや公開講座、イベント、学会**など、「開かれた大学づくり」の取り組みに積極的に協力します。

重点課題

重点課題は、ビジョンの実現のために「具体的にどのような行動が必要か」「何を優先的に取り組むべきか」を言葉に置き換えたものです。生協の役職員、学生委員会の活動を考えるうえでの指針ともなります。

1 長期持続的に組合員や大学に貢献し続けられる経営基盤を確立します。

現中期計画(2014-2016)中に経営改善が大きく前進しました。食堂分野では、名古屋・豊橋あわせた全体で2015年度黒字化を達成し、今年度も黒字決算を迎えることができました。次期中期計画においても、引き続き経営改革をすすめ、安定した経営基盤を確立し組合員や大学の期待に応える生協になりたいと考えています。

- (1) 大学の定員超過抑制のため、私学助成不交付基準の厳格化が始まっています。愛知大学では2017年度の入学者は170名程度減少し、2018年度(2019年春入学者)までに2016年度末比較で10%約250人程度まで減少する予定です。この入学者の規模でも安定した経営を実現することがこの中期計画期間中(2017-2020)に必要です。
- (2) 引き続き食堂の経営改革を行い、安定して黒字が残る食堂2店舗の運営を目指します。
 - ・名古屋アペティ、豊橋ベルの魅力を高め、組合員に支持されるサービス・メニュー構成・収益構造を目指します。
 - ・「選ばれる食堂」のために、メニューの工夫、おいしさ、価格、品切れ防止を追求します。
 - ・作業の標準化をすすめ、店舗運営の効率化を図ります。
 - ・豊橋校舎の内製事業（丼）を強化します。
- (3) **事業剰余率 2%**を安定的に生み出すために、組合員のための事業充実と拡大、新たな業務改革と改善に取り組みます。
 - ・店舗に継続的な投資をするためにも剰余の蓄積は不可欠です。
 - ・供給剰余の構成比の改革をすすめます。具体的には新学期に頼らない収益構造を確立し、日常の店舗活動、組合員利用を強化します。

・具体的には名古屋校舎移転前の供給高である 10 億円の大台を目標に、事業剰余額 2,000 万円を安定的に生み出す経営の確立を目指します。(2015 年度：供給高 9 億 1,027 万円、事業剰余 2,215 万円、2016 年度：供給高 9 億 2,230 万円、事業剰余 2,573 万円)

(4) 豊橋の校舎の施設改修をすすめ、組合員が利用しやすく、職員が働きやすい福利厚生施設の充実を図ります。

・豊橋校舎の逍遥館が完成して約 20 年が経ちます。これまであまり施設や設備の更新が行えていないので、計画的に 2020 年までの 4 年間で投資を行います。

・2018 年度春からベルで本格的に食堂パスを導入する準備を進めます。

(5) 中期計画実現のために事業分野の見直し、職員体制の強化を行います。

・店舗力強化、組合員サービス強化、新規事業開発を重点とした機能整備を図ります。

・2017 年 4 月、名古屋アペティに新入職員を迎え、新人教育を行います。

・東海地区大学生協のさらなる事業連帯活動の発展のため、また個々の職員のキャリア形成のため、積極的な人事交流を実施します。

(6) 車道校舎での事業は単独の校舎としては赤字構造ですが、生協が求められる役割を発揮するため名古屋・豊橋・車道の 3 キャンパス全体で生協のサービスが受けられることを優先し、車道校舎での事業を継続します。

・2016 年度末車道校舎での事業は約 230 万円の赤字となっています。

・車道校舎での赤字をこれ以上増やさず、名古屋・豊橋での事業を安定させることで車道校舎での事業継続を支えています。

2 **販売系店舗の商品力・運営力強化**を図り、キャンパスで消費するあらゆる分野の商品・サービスを強化します。

(1) 名古屋校舎で旅行事業全般、豊橋校舎での海外旅行の受付を再開し、組合員の旅行ニーズへの対応を進めます。また、海外旅行を通じて学生の異文化体験の機会を積極的に提案します。

(2) キャンパス内のコンビニエンスストアとしての商品力・店舗力を強化します。食堂の改善が進み利用が増えると食品・キャンパスフード分野の利用は減少しますが、減少させないように店舗力を強化します。

(3) 生協店舗内の総合カウンターを、「キャンパスライフ全般の総合カウンター」として強化します。

(4) 組合員への情報提供力を高めます。ダイレクトメール、ツイッター、メールマガジン、ホームページ、店舗掲示など、必要な人に必要な情報を届けるためのしくみを整備します。

(5) 大学各部署・研究室を訪問しての提案活動、総合カウンターでの対応力を高め、校費利用への受注対応を従来以上に強化します。

- (6) IC 組合員証による電子マネー決済システムの充実と活用を図ります。電子マネーの利用率を高め、プレミアムとポイントによる組合員還元を広げます。

3 学生組合員の「**学びと成長**」「**キャリア支援**」を根幹にした事業活動を強化します。

- (1) 組合員のキャリア形成を支援する事業を展開します。展開にあたっては、キャリア支援課との連携・協力を大切にしてください。
- ・キャリアデザインセミナー（新入学時の企画から、継続型の企画へ）
 - ・英語学習（TOEIC、英会話）を支援する講座、教材提案
 - ・組合員の様々な経験を増やす、体験型の企画を実施します。
- (2) コンピュータリテラシーへの貢献事業を展開します。
- ・パソコン講座や店舗でのサポートなど、組合員の学びや研究をサポートします。
- (3) 海外旅行の取り扱いを再開し、海外留学や異文化体験など海外旅行におけるキャリア支援をサポートします。
- (4) このテーマの事業・活動への組合員参加を広げます。
- ・同じ目標を持つ学生どうしの交流や先輩から後輩へのアドバイスなど、教える学生・教えられる学生、相互の成長を育む活動を推進します。

4 **組合員参加と基礎組織の強化**を図り、**組合員の自主性と協同を育むとりくみ**を推進します。

- (1) 生協の基礎組織をより一層強化します。
- ・学部生加入率 100%、教員加入率 70%、職員加入率 40%を目指します。
 - ・学生委員会の強化を図ります。
 - ・理事会運営を強化し、教職員の力を生協の運営・事業に生かせるようにします。
 - ・生協の活動を知らせる広報活動を強化します。
- (2) 助け合いの共済事業と、健康で安全な学生生活を支えるための活動を強化します。
- ・学生総合共済の良さを知らせ、共済加入率学部生 75%を目指します。
 - ・給付の呼びかけと申請しやすいカウンターを大切に、給付漏れをなくす取り組みを推進します。
 - ・健康・安全をテーマに、「安全フェスタ」「健康フェスタ」などの取り組みを一層発展させます。
 - ・食の安全・安心に向け、食育活動と共に学び、考える場を提供します。
- (3) 学生委員会活動を中心に協同の輪を広げ、多くの学生の参加で大学づくり、生協づくりをすすめます。
- (4) クラブ、サークル、ゼミ、学内諸団体、同窓会、職員組合等の学内諸団体との連携を強化します。